



ミズクラゲ

干潟を散策していると、変てこなものが地面に転がっていることがよくある。ミズクラゲは、ミズクラゲ目ミズクラゲ科に属するクラゲの一種で、日本近海でも最も普通に観察できるクラゲである。傘に透けて見える胃腔、生殖腺が4つあることから、「ヨツメクラゲ」とも呼ばれる。成体で傘の直径15 - 30cm、それ以上のものも稀に見られる。傘には、縁辺部に中空の細く短い触手が一行に無数に並ぶ。傘の下側の中央に十字形に口が開き、その4隅が伸びて、葉脈の位置で二つ折りにしたヤナギの葉のような形の4本の口腕となる。体は四放射相称で、口腕の伸びる方向を正軸、その中間の軸を間軸という。間軸の方向に4つの丸い胃腔があり、馬蹄形の生殖腺に取り囲まれる。刺胞を持つが、刺されてもほとんど痛みを感じることはない。餌となるのは主に動物性プランクトンで、時に仔魚を捕食する。遊泳運動は捕食活動も兼ねており、傘を開閉することで縁辺部の触手の間で海水が濾過され、そこに浮遊する動物プランクトンが触手に捕らえられる。

一部、少し、難解な用語が多く出ているが、インターネット百科事典（ウィキペディア）情報からの引用である。